

保護者様

令和7年度 学校評価について(概要報告)

信州大学教育学部附属松本小学校
校長 牧野 孝裕

本年度の学校評価について、下記のように報告します。

記

- 1 実施期間 令和7年11月～12月
- 2 実施方法 Google フォームによるアンケート式 ※1学年児童は記述式
- 3 実施対象(回答者) 児童422名(400名) 教員20名(15名) 家庭数323件(のべ237件)
- 4 結果の概要・考察 (A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない E:わからない)

(1) 児童アンケートより

① 【評価の高かった項目】

6 私は、体育の授業や休み時間の遊びなどで、走る、跳ぶ、押すなどの運動する力や、筋力、持久力、素早く動く力などの体力が向上してきていると思う。
A:55.4% B:29.1% C:9.5% D:2.1% E:4.0%
肯定的な回答が例年並8割程度となった。体育の授業では、学習指導要領の内容に準じて年間を通して様々な運動領域に取り組んでいる。休み時間では、ICT 端末導入以降教室で過ごす時間が長い児童が一定数いるが、保健指導で適切な外遊びの必要性を周知したり、担任も含めて積極的に体を動かす機会を設けたりしている。ボールや長縄跳びなど学級で使える運動用具の常置、体育館空調設備の利用など、体を動かしたくなる環境を引き続き整えていきたい。

② 【評価の低かった項目】

7 「あいさつをしよう」「ろうかを走らないようにしよう」など学校のきまりを守るように努力している。
A:22.6% B:52.3% C:17.1% D:4.3% E:3.7%
肯定的な回答が例年並8割以下となり、昨年度より7ポイント程度減少した。多くの児童が努力している反面、職員、保護者の意識からも校内生活における基本的なルールやマナーが、児童自身に身につけにくい様子がうかがえる。一方で、今年度重点としてきた登下校のマナーについては、地域からの苦情が少なくなる等、成果が見られている。一つひとつのルールやマナーを知る時間を持ち、守ることの大切さを考えられるよう指導していきたい。

(2) 職員アンケートより

① 【評価の高かった項目】

12 いじめを許さないという態度を示し、児童の悩み事に親身に対応している。
A:73.3% B:26.7% C:0.0% D:0.0% E:0.0%
回答者全員が肯定的な回答となった。休み時間や給食、清掃時なども児童と共に過ごす中で実態把握すると共に、児童アンケートを2カ月に1度実施するようにし児童理解に努めてきた。また、いじめ事案が確認された場合には校内で即時に対策委員会をもち、実態の把握と迅速な対応方針を決定し、関係児童や保護者への対応に努めてきた。大学とも共有を図り、重大事態に陥らない対応に努めている。児童、保護者には引き続き、いじめ対応方針等を公開し周知を図ると共に、気軽に相談できる窓口をひらき不安や悩みを聞き取っていきけるようにする。

② 【評価の低かった項目】

19 特別な配慮や支援を要する児童の支援シートを作成し、授業や相談にあたっている。
A33.3% B:33.3% C:13.3% D:6.7% E:13.3%
昨年度も課題の項目であり、肯定的な回答が6割程度、「よくあてはまる」回答割合が上昇した。特別支援学級がない本校において、多様な児童の支援の在り方については引き続き職員研修等の機会を複数回もつなどして、実践的な対応を考えてきたことにより、校内での連携だけでなく外部機関とも連携し助言をもらいながら進めていくことができた。一方で、児童本人の困り感を十分にくみ取れない場面も見られる。定期的に複数でのサポート体制をとる、保護者との連絡を密にとるなど、体制を整え取り組んでいきたい。

(3) 保護者アンケートより

①【評価の高かった項目】

10 自分の子どもは楽しく学校に通っている。

A:69.6% B:21.9% C:5.5% D:3.0% E:0.0%

肯定的な回答が例年並9割以上となった。児童が日常的な学校生活を充実して過ごしていることを、保護者にも受け止めてもらえていると考える。一方で学校に気持ちが向きにくい児童も複数いる。保護者懇談会の際には、担任と共に管理職や特科も保護者の考えを聞くなどして、児童の今後の方向性を検討する機会をもってきた。また、大学や医療、行政等のサポート機関と連携し、具体的な支援体制を構築することができた。各児童の実情に寄り添った学校生活になるよう、引き続き組んでいく。

②【評価の低かった項目】

12 学校は、あいさつ等の基本的生活習慣の育成に努めている。

A:27.0% B:43.0% C:15.2% D:2.5% E:12.2%

肯定的な回答が例年より10ポイント程度減り7割となった。あいさつについては、学級指導や児童会活動を通じて取り組んできているが、意識的に取り組む児童の姿が少ないことが職員間でも課題として挙げられている。学級発信のあいさつ活動などの動きもあるため、あいさつを始め日常の基本的ルールやマナーの意義について児童自身が感じられるような指導を次年度につないでいきたい。家庭にも協力を仰ぎたい。

(4) 保護者自由記述より

附属松本小学校 教育活動について

○基礎学力や基礎体力を学校でつけてほしい。

○学力の基礎を培うような学習方法を入れていただきたい。

○宿題を出すのなら、きちんとフィードバックになるものにしてほしい。

→学習指導要領に則り、初等教育段階で求められる学力の土台を培えるよう取り組みます。また、教員自身が教科指導力を向上させられるよう、校内外における研修機会を充実させます。

○知的好奇心を刺激して、学ぶ楽しさを実感し、授業の中で子供達が育つような授業をして欲しい。

○それぞれの学力に差があるので、自由進度学習などで子ども達それぞれの学びを深めてほしい。

○子どもたちの主体的な活動を尊重してほしい。

→教育課程特例校の強みを生かし、子どもの育ちに準じた教育課程の実現に向けて、引き続き授業研究を進めます。

○附属小の特性を鑑みても、文科省が定める時数不足はあってはならないことなので、是非教訓にして学校全体で今後に活かしていただきたい。

○学びの内容と質によって地域に理解される小学校になることを望む。

→教育課程実施に関する事案については、児童、保護者、地域の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけし、心よりお詫び申し上げます。再発防止策に則り、子どもたちのよりよい学びの実現に向けて、教職員一同真摯に対応してまいります。

○幼小中一貫教育校のシステムを整えてほしい。

→今年度は一貫教育校初年度にあたり、附属松本学校園として取り組んできた教職員間の連携を基に、公開研究会や全附連北信越松本大会を実施することができました。幼小交流や小中交流、中学校の見学や中学校での授業、教員の乗り入れ授業や保育参観など、子どもたち同士や教職員が異校種に関わる場面をもつことができました。子どもたちにとっての効果を図りながら、一貫の在り方について検討を進めます。

○支援級を設立してほしい。

→学校からも特別支援教育に特化した人材の配置、支援できる教室の設置等、長年要望してきていますので引き続き要望していきます。現在の状況でも児童各自に応じた指導ができるよう、教室内の教材やスペースが確保できるよう検討中です。また、特別支援教育の視点からも教職員の研修を進めます。

○通知表の必要性について検討してほしい

→通知表の導入は、教員側が、指導と評価の一体化を図り子どもの学習状況について保護者へ説明責任を果

たすための取組です。個別懇談会等で口頭でお伝えしきれない面も、通知表に代えてお伝えすることができます。お伝えする内容や時期など今後のあり方については、教員の労力軽減や業務改善も含め、改めて検討・改善していきます。

学校行事等について

○縦割り遠足、相撲大会、スキー教室、宿泊学習となくなったものが多く、別の機会に同等な経験ができていることが感じられない。

○ダイナミックな体験学習を考えていただきたい。

○遠足やスキー教室の代わりとなる学習が、体力を培うものであってほしい。

○音楽集会やつどいは、やらなくなってしまったのか。

○音楽の授業以外の日々の学校生活にも、合唱の機会があるといい。

→学校行事は、全校または学年などの児童で協力して取り組む活動を通して、多様な他者との協働を学びます。その計画については実施時数を含め、各学校の創意工夫を生かし、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図って行うとされています。例えば運動会やスキー教室は、体育科の学習内容と関連を図って行っています。学校や地域の実態、児童の発達の段階、実施経費等を考慮し、学校行事としての目標が達せられるよう計画していきます。

○行事の後に毎回アンケートをとっていただきたい。

→Google フォームを使つての事後アンケートの実施ができるよう検討します。

子どもの安全について

○歩行だけでなく、自転車の安全についても扱ってほしい。

→春の交通安全教室では松本市交通課と連携し、4年生に自転車安全講習を実施し自転車免許証を交付しています。5・6年生でも自転車ルールについて確認しています。自転車に乗り始めるタイミングで、ご家庭でもお子さんと一緒に路上運転を行い、ルールやマナーの詳細を覚えられるようにしてください。

○帰宅途中の寄り道、歩きスマホ、校外での過ごし方について指導してほしい。

○以前よりあいさつできる子が減っていると感じる。あいさつができるように学校側でも努めてほしい。

○形骸化しているルールがあるようなので確認いただきたい。

→登下校時のルールやマナーについては、年度当初の重点的な指導、時期に応じた指導、PTA 校外指導部による登下校観察後のフィードバック等、繰り返し行ってきたことにより昨年度より地域からの苦情が少なくなりました。一方で登下校時間が長くなる児童が少なくない中、登下校中であるという意識がもちづらくなる場面があり、自由にふるまう様子も見られます。校内外における学校のルールを確認していきます。各家庭でも金銭や携帯電話の扱い等、確認をお願いします。

○学校のタブレット利用のルールについて、引き続き指導してほしい。

→授業中だけでなく、児童会活動や学校行事など授業外でもタブレットを日常的に使うことで、子どもたちの表現や活動の幅が広がっています。情報モラルも含めた情報活用能力が身に付けられるよう、情報に関わる最新の動きを研修しながら指導に生かしていきます。

○プール横駐車場が登下校する児童と送迎の車が混同していて怖い。

→プール横の駐車場については、年度当初の利用説明にある方法に則り、ダッシュボードに利用者名を掲示する、施錠を行う等、適切な利用をお願いします。また、出口の左折進行の自主規制にご協力ください。

その他 要望等

○子どもたちは、学ぶことの楽しさを感じながら、学びを深めていると感じます。先生方のご指導のおかげだと思います。授業のコマ数も大事ですが、学校が今後も附属らしいのびのびとした学びの場であることを願っています。

○担任の先生が、子ども一人ひとりを尊重し、温かく接して下さっているおかげで、クラスの雰囲気明るく、笑顔で登校することができています。

○子どもたちの視野を広げ社会とのつながりを知る活動をたくさん取り入れていただき大変感謝しています。

- 歯みがきの時間を確保してほしい。
 - 歯磨きについては、給食の後に磨く時間を確保し、できる範囲で磨けるよう指導しています。引き続き、養護教諭による保健指導や保健委員会による呼びかけ等で、意識づけられるようにしていきます。
- 身体計測があったら、結果を毎回知られるようなシステムがあれば良いと感じます。
 - 学期末にお渡しする「健康の記録」とは別に、身体測定の結果をお知らせできるようにします。
- 保健室に関して、体調不良の子が静かに休める環境を整えていただきたい。
 - 保健室は、けがや病気だけでなく、心身の不調を整える場と位置付けています。時期や時間帯によっては多くの児童が集う場合があります。その日の状況によっては、教室で過ごす選択肢ももてるよう、教室の環境改善・環境整備を図っていきます。
- 育英会や後援会の収支報告は、もう少し詳細なものを提示してほしい。なぜお金が必要なのかわかりにくい。
 - 年度初めの育英会総会資料、後援会総会資料に詳細を掲載してありますので、ご参照ください。各総会資料と共に活動目的や活動内容を理解していただいたり、活動に協力いただけたりできるよう、おたよりやホームページを活用しお知らせしていきます。
- この一年半で、図書館が整備され、子どもたちのための図書館になってきた。今後も継続するために、図書館司書もしくは同等の専門知識と熱意のある担当の方が、継続的に図書館整備に携われる体制が整うことを願う。
 - 図書館整備には、学校応援団ボランティアの取組として、多くの保護者の方に関わっていただいております。今年度は学級文庫の整備、検索システムの構築なども行っていただきました。子どもたちが楽しみに図書館に通ってくる様子があります。図書館での活動が認められ、松本ライオンズクラブ様、信州岩波講座まつもと2026様より図書費の寄贈をいただきました。心より感謝申し上げます。
- パンは週一にするなどご飯の頻度を増やしてほしい。
 - 現在の給食費のうち主食分を勘案し、週3回を米飯、2回をパンとしています。月曜休日が多い月はパン食が多くなってしまふことから、米飯の回数を増やすなど試験的に対応してきましたので、来年度も継続します。米飯を週4回とする場合は、給食費の値上げが必要となる可能性が大きいいため、他食材の値上がり分も見計らい検討していきます。
- 午前授業の日も給食を出してほしい。
 - 給食調理員に人件費に関わり、年間の給食日数を大幅に変更することはできません。午前授業の日については、遠方から通学する児童を考慮し、おにぎりをとる時間を設けています。食べる時間が十分にとれないため、すぐに食べ終わられる内容で構いませんのでご用意をお願いします。

(5) 学校評議員意見より (抜粋)

A:極めて優れている B:非常に良い C:非常に良い D:良い E:課題がある F:改善が必要

開催期日	学校運営について	授業参観から	全国学識について	学校評価について	本校の将来像
7月2日	B100%	A50% B50%		A20% B80%	
2月6日	A33% B66%		B66% B33%	B100%	B66% D33%

- 各教室の掲示物から、日頃の学習の歩みの深さが分かる。授業では、理解や考察を深める為の教師の工夫があり素晴らしい。
- 学力テストの点数が、低学年は低く3年生から伸長が認められたことは好ましい結果だと思う。これは具体的な体験が言語化されるまでに要する時間を示しているのではないか。本物の学力は「まわり道が近道」ということを語っているのだと思う。一方、主体的に学習に取り組む態度の評価が全国比でかなり低い点は気がかり。
- 昨今、県内においてもPTA組織が解散する動きがある中で、PTA会長から協力的な保護者によって運営されているPTAの現状の報告があり安心した。また、改善の方向性も明確にあり力強く感じた。
- 学習進捗の問題があったが、進捗指標については義務ではないものの世の中の保護者の要望がある以上は、今後も丁寧に管理していくべきだと思う。少子化が進むこれからの中期的な視点でのことが、国立学校は今回の給食費無料化から外されたことを考えると、国の将来的スタンスも伝わった。これまで以上に公立学校との差別化を意識した取り組みをし、淘汰の渦に巻き込まれるリスクを意識した将来設計をしていただきたい。

(問合せ先)
 信州大学教育学部附属松本小学校
 担当 田代(教頭)
 電話 0263-37-2216